

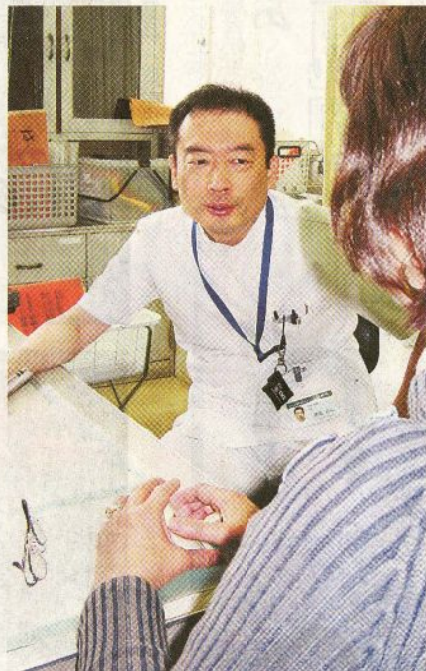
C型肝炎治療

ウイルス排除へ2薬併用

汚染された血液製剤の投与や輸血などによってウイルスに感染して起きるC型肝炎。ウイルスの型や量にもよるが、ペグインターフェロンとリバビリンという薬の併用療法で、約90-50%の患者でウイルスを体内から排除することが可能になった。一方で、自覚症状がないまま肝硬変や肝がんへと進行する恐れがあるため、専門医はウイルス検査と適切な診療が重要と指摘している。

東京都内の女性(64)がウイルス感染を知ったのは一九九四年、健康診断がきっかけだった。二十代で受けた輸血が原因らしい。都立病院で週三回、半年間のインターフェロン注射を続けウイルスは減ったものの、二年後に再び増加。近所の総合病院で肝臓の細胞を保護するグリチルチン製剤を続けたが肝機能は悪化したまま、三宿病院に転院した。同病院内科部長の藤岡高弘・自衛隊中央病院高等看護学院長は「中等度から重度の慢性肝炎だった」と振り返る。「二〇〇五年八月からペグインターフェロンを単独投与。〇六年五月にリバビリンとの併用療法に切り替えると、七月にはウイルスが陰性となった」。

欠かせぬ早期診断



併用療法でC型肝炎ウイルス陰性となった女性と主治医の藤岡医師
(東京都目黒区の三宿病院)

C型肝炎ウイルス感染で肝炎になった肝臓(左)と、感染から30年たって肝がんになった肝臓(武蔵野赤十字病院提供)



〇七年四月、四十八週間の併用療法を終了。女性には一月一回、検査を受けているが、十一月末の検査でも肝機能の数値は正常、ウイルスも引き続き陰性で、藤岡医師は「治った」と言っている。とほほ笑みかけた。インターフェロンの治療効果

プロテアーゼ阻害剤 期待の新薬 国内治験へ

C型肝炎の治療には、さまざまな薬が使われており海外で開発中の薬も日本で治験(臨床試験)が始まる予定だ。中でも期待されているのは、ウイルス増殖に必要な酵素の働きを妨げるプロテアーゼ阻害剤。虎の門病院分院(川崎市)の熊田博光分院長によると、海外では「難治性」でも二十四週投

与により約70%の患者でウイルスが消えたという。国内でも安全性、有効性を確かめる治験が近くスタートするが、順調に行っても承認されるのは数年先。「ペグインターフェロンとリバビリンの併用療法が効かなかった患者に限られる可能性が高いので、何とせず新薬が出るのを待つ

は駄目。今ある治療法を受けてほしい」と熊田分院長はくきを刺す。現在の治療の主流であるインターフェロンは、もとは病原体が侵入したときなどに体内で作られるタンパク質で、治療薬は遺伝子組み換え技術で製造。ウイルス増殖を抑える効果が

なくとも、肝がんになるのを防ぐと期待されている。血液中の濃度がすぐに落ちるインターフェロンに、ポリエチレングリコールという物質を結合させ、一週間一十日間持つようにしたのがペグインターフェロン。抗ウイルス作用のあるリバビリンは単独では効果

がない。厚い性。掛け。大量。出。ゲ。の。輸。透。術。

クリック



C型肝炎の治療の概要 (初回投与)

ウイルスの型	
1b [日本人患者の約70%]	2a [日本人患者の約20%] 2b [日本人患者の約10%]
高	ペグインターフェロン・リバビリン併用 (48週間)
低	ペグインターフェロン単独 (24週間)
高	ペグインターフェロン・リバビリン併用 (48週間)
低	ペグインターフェロン単独 (24-48週間)

※厚生省研究班ガイドラインより

なっている」と藤岡医師。最近では、ウイルスが初めて陰性化する時期が最終的な治療効果に影響することが分かってきた。

一方で併用療法は、妊婦や重い心臓病のある患者は受けられない。副作用として貧血や発熱、頭痛、脱毛、うつ状態などが報告され、治療中止率は約15%。規定の期間投与しても効果が得られない患者もいる。

効果は、ウイルスの型や量に左右される。女性のように、1bという型で量も多い「難治性」の場合、以前のインターフェロン単独療法でウイルスが消える患者は数パーセントだった。体内にとどまる時間を長くして週一回の注射で済むペグインターフェロンが

「自覚症状はまったくなかった」と言う。健康診断の二年前、脳腫瘍手術の際に「抗体がある」と言われたが、手術に気を取られて意味を詳しく聞かず、病院側から説明もなかった。その後、ウイルス検査を受けず併用療法に出合っていないければ、気付かないうちに肝硬変や肝がんになっていたかもしれない。

クリック 出たた剤年人リさとはきマ例年覧投に知
やCれ製たプ与一症同はる告
手術、さ血液製たプ与一症同はる告
手て、汚染し、(1964年)に投与した
業害肝炎問題、出血止、ミドリ十字「フィブリノゲン」など投与が相次いで感染。ノゲンは約28万人が感染し、推計される。厚生労働省は2002年、三菱生命(現田辺三菱製薬)の報告を基に、8月、表とをとしな

日本肝臓学会の指導医である藤岡医師は、医師と相談できる知識と判断力を持ち、前向きに取り組むよう患者に呼び掛けている。「併用療法が効かなくても、数年のうちに新薬が出るかもしれない。これ以上悪化しない、がんにならないよう治療を続けよう」

保健所や職場でも

感染検査

厚生労働省がC型肝炎ウイルスに感染している可能性が高いとして検査を呼び掛けているのは、出産時の大量出血などでフィブリノゲン製剤の投与を受けた人のほか①一九九二年以前に輸血を受けた②長期間血液透析をしている③大きな手術を受けた「などに該当す

る人たちだ。厚生労働省は二〇〇二年度に、全国の自治体が老人保健法に基づき実施する住民健診(基本健康診査)にC型肝炎のウイルス検査を導入。四十一・七十歳の主婦や自営業者らが対象で、四十歳から五歳刻みの年齢で受ける「節目健診」のほか、感染リスクなどから希望すれば節目以外でも受けられる。厚生労働省によると費用は自治体によって異なり、無料から千円前後。このほか全国の保健所でも昨年四月から、年齢を問わず無料で検査を受けることができるようになった。職場では、中小企業の社

◆お断り 「この病気の治療には休みました。